



発行所

株式会社 建設新聞社

〒849-0301

小城市牛津町乙柳1145-7

Tel 0952-66-5750 (代)

FAX 0952-66-5751

第16回研究発表会

原社長らが成果発表

FWG・透保水性舗装工法など

日本建設技術(株)グループ

日本建設技術(株)（本社・唐津市北波多、原裕社長）グループは13日、唐津シーサイドホテルで2019年度研究発表会を開催した。関連5社の社員、来賓など約180人が出席し、原社長と同社の松本哲哉氏が成果発表を行った。発表会は毎年開催しており、今



▲あいさつする原裕社長

年で16回目。冒頭、原社長は「研究発表会は新入社員への歓迎会、社員の1年間の実績を披露する場として毎年行っている。何事にも疑問を持つて取り組めば想像力が付き、別の発想が出る可能性がある。我が社のオンラインワンの技術としてミラクルソル

があり、今年社員から新しいアイデアや工法が出てくることを楽しみにしている。それぞれの社員が責任感と自覚、目標を持って仕事に取り組み、会社の経営力アップに繋がることを期待する」とあいさつした。成果発表では、企画開発戦略本部と総合情

報技術事業本部の部長も務める原社長が「2018年度のあゆみ及びFWG・透保水性舗装工法」の演題で発表し、18年度と同グループの活動内容やFWG・透保水性舗装工法について説明した。その中で原社長は「2020年開催の東京オリンピックに向け、FWG・透保水性舗装工法などを積極的にアピールし、活用してもら

えるように取り組んでいきたい」と話した。続いて、建設&コンサルタント事業本部建設第2事業部第3グループ長の松本氏が「親杭パネル工法を用いた道路災害復旧工事の施工事例」の演題で発表。宮崎県で施工した法面復旧工事での課題やその解決策を紹介した上で、「各現場で様々な制約事項が発生するが、その現場に応じた打開策を計画立案し、実施できる技術力を更に向上させ、今後の工事に生かしたい」と述べた。

最後に加藤合同国際特許事務所の加藤久氏が「成功した3人の経営者に成功の秘訣を聞いたら、同じことをやり続けたという答えが返ってきた。研究成果発表会も16回となり、続けていこうとが素晴らしい。松本氏の発表でもあったが、仕事上の課題を徹底的に抽出し、その解決策を考えていけば新しいアイデアや知恵が出てくると思う」と研究発表会の講評を行った。このほか、功労者表彰や新入社員の紹介があり、会場を移して懇親会も行われた。



2019年度研究成果発表会の様子